

2024年12月期
決算説明資料
2025年2月25日

 **内外トランスライン株式会社**
International Freight Forwarder
プライム市場 9384

決算概要

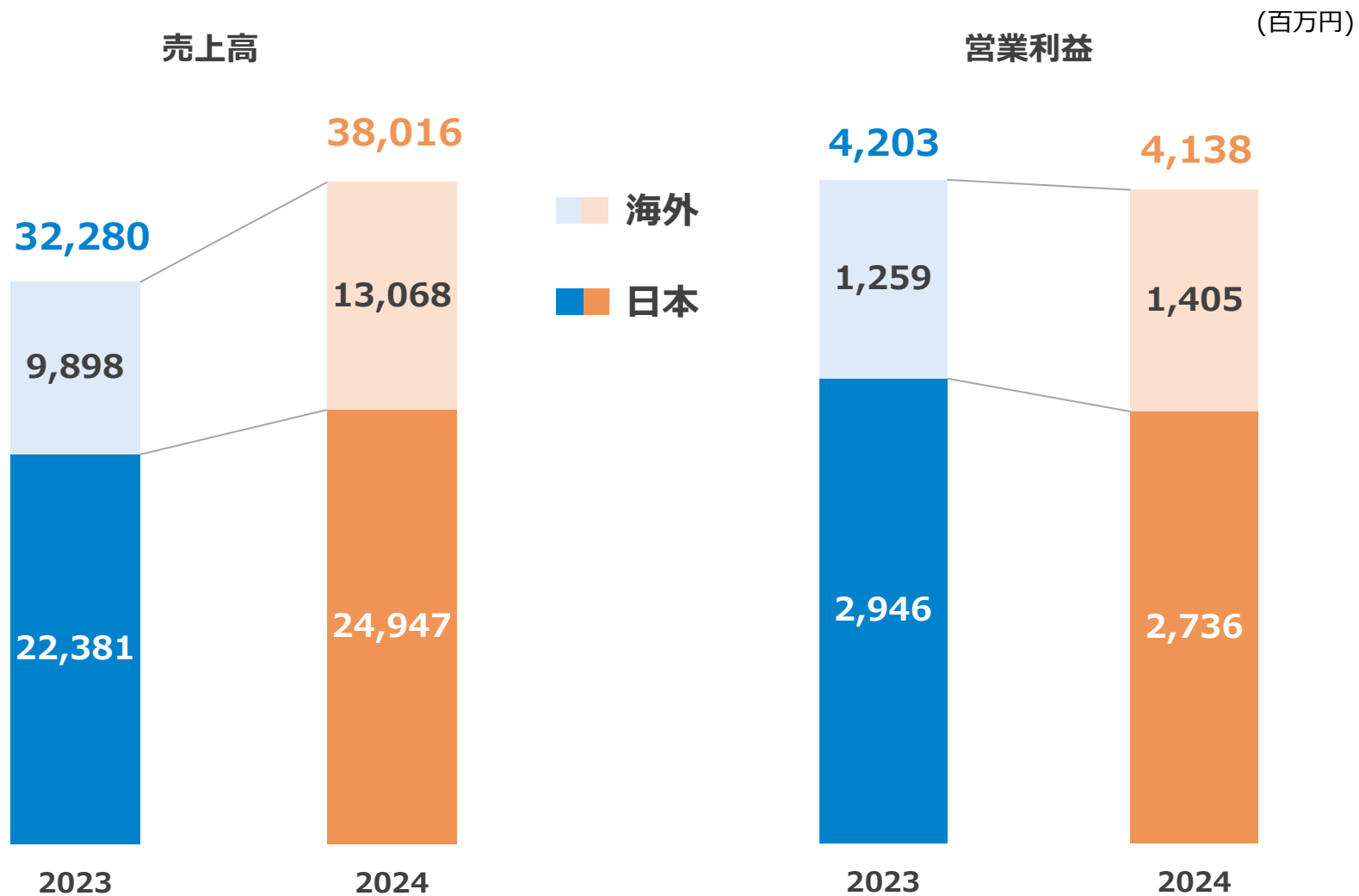
連結実績

(百万円)

	2023	2024	対前年 増減率	2024 修正予想 (12月13日)	対予想 乖離率
売上高	32,280	38,016	17.8%	38,000	0.04%
営業利益	4,203	4,138	△1.5%	4,100	0.9%
経常利益	4,446	4,492	1.0%	4,300	4.5%
親会社株主帰属 当期純利益	3,041	3,154	3.7%	3,000	5.2%

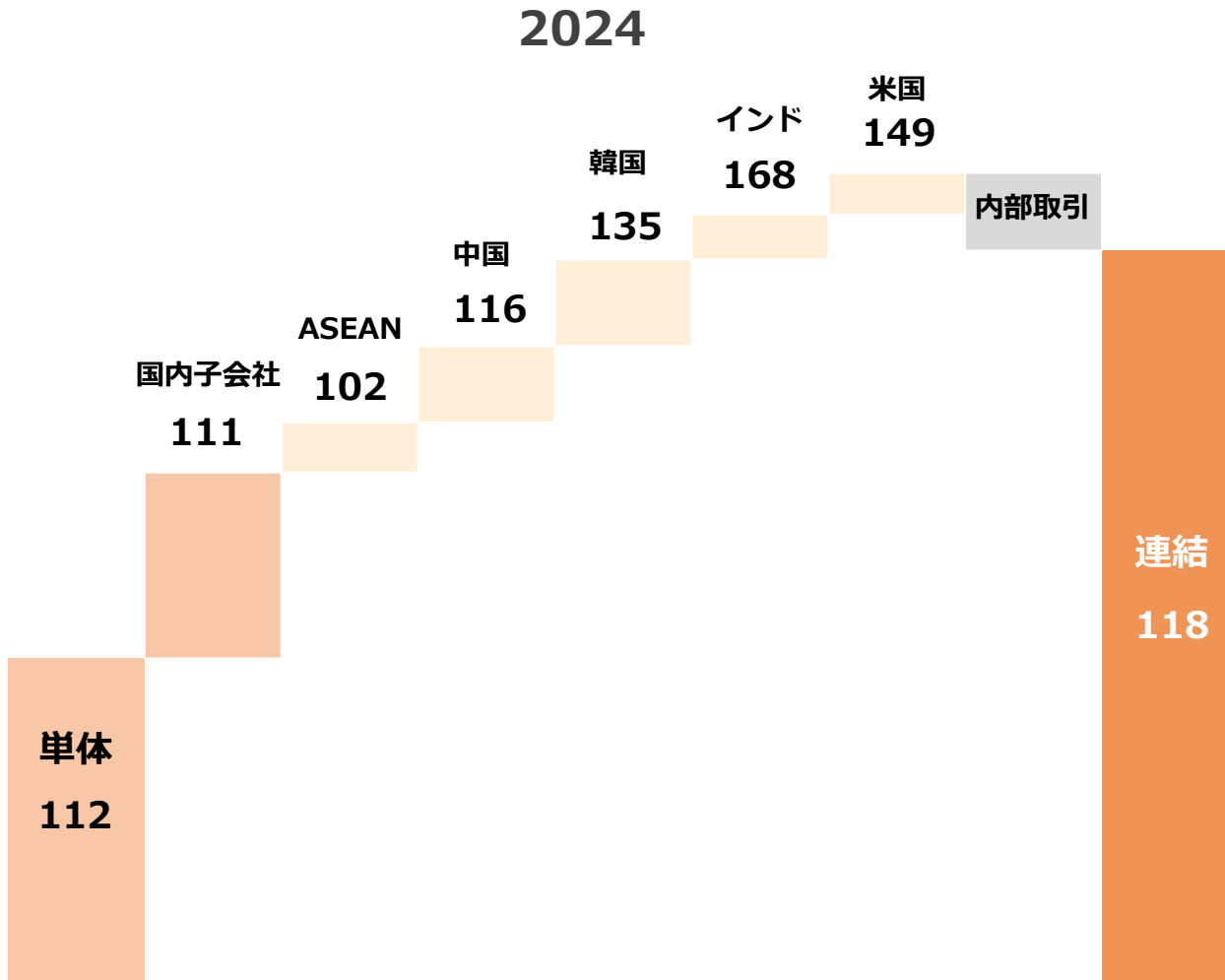
為替レート ¥/US\$ 140.66 151.69

セグメント別売上高・営業利益



当社グループ売上高の割合

※2023の各地域の売上高を100とする



※単純合算

※ASEAN: シンガポール・タイ・インドネシア

グループ業績ハイライト

単体

- 海上運賃の上昇と円安により増収となったが、競合他社との競争激化等による売上総利益率の低下と、人件費の増加等、販管費が膨らんだことにより減益。

国内 子会社

<ユーシーアイエアフレイトジャパン>

- 主力とする航空輸送は大口案件を獲得、各営業所での営業活動により取扱が増加したこと等により売上高、売上総利益は前年比で増加。単体と同様の理由により販管費が増加し、営業利益は前年比で減少。

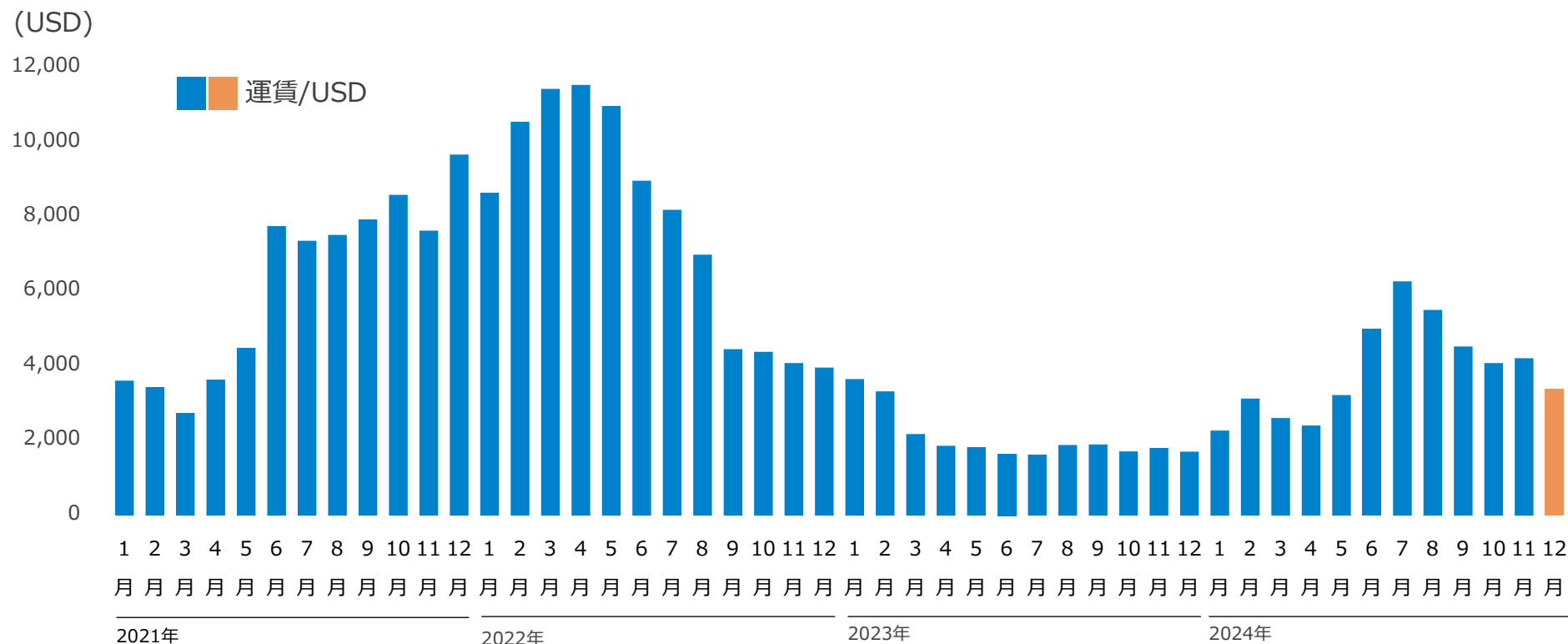
<フライングフィッシュ>

- 新システムの導入や営業努力により顧客からの評価を高めたことが取引の拡大に繋がり、増収増益。

海外 子会社

- 前年度に物流倉庫の取得によって増床した内外釜山物流センター株式会社を中心とする韓国、大手企業との輸入取引を拡大している米国及び倉庫事業の業績が堅調に推移しているインド等が売上を伸ばした結果、増収増益。

北米航路月別海上運賃の推移(横浜/20ft)



横浜/ロサンゼルス航路コンテナ運賃動向

2025年1月29日

(USD)

年	サイズ	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2023年	20ft	3,662	3,332	2,192	1,871	1,840	1,657	1,637	1,894	1,908	1,725	1,812	1,714
	40ft	4,946	4,632	3,486	2,563	2,328	2,166	2,106	2,484	2,499	2,248	2,382	2,230
2024年	20ft	2,281	3,138	2,616	2,414	3,236	4,996	6,283	5,514	4,534	4,090	4,222	3,389
	40ft	2,832	3,990	3,384	3,122	4,216	6,487	7,523	7,385	6,050	5,615	5,456	4,519

※(公)日本海事センター：コンテナ運賃動向資料を基に当社にて作成

連結会計期間実績

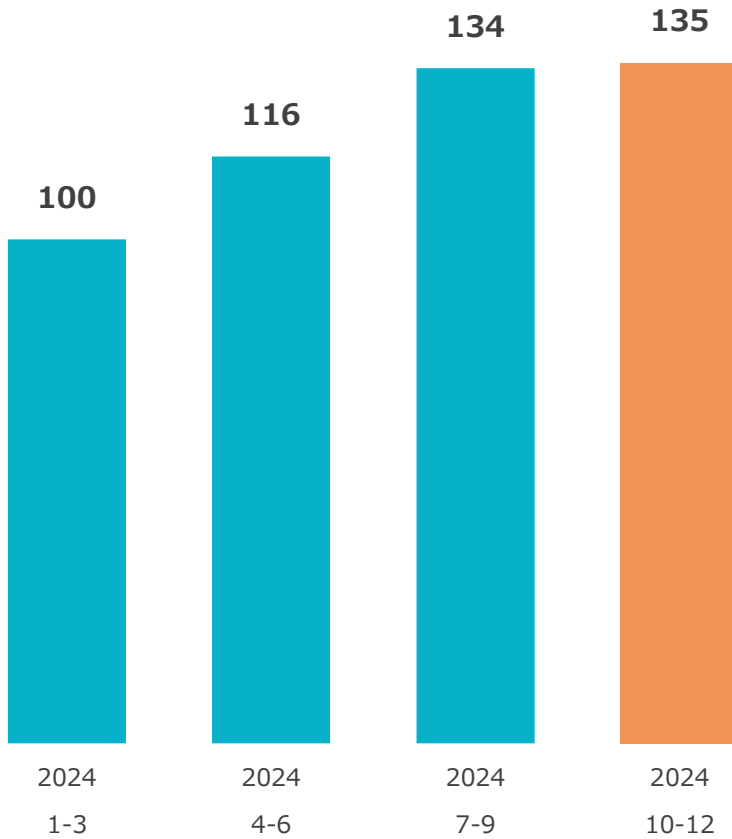
(百万円)

	2024 1-3月	2024 4-6月	2024 7-9月	2024 10-12月	対2024 7-9月比
売上高	7,948	9,266	10,494	10,307	△1.8%
営業利益	827	1,097	1,062	1,151	8.3%
経常利益	972	1,210	948	1,362	43.7%
親会社株主帰属 当期純利益	671	802	659	1,021	55.1%

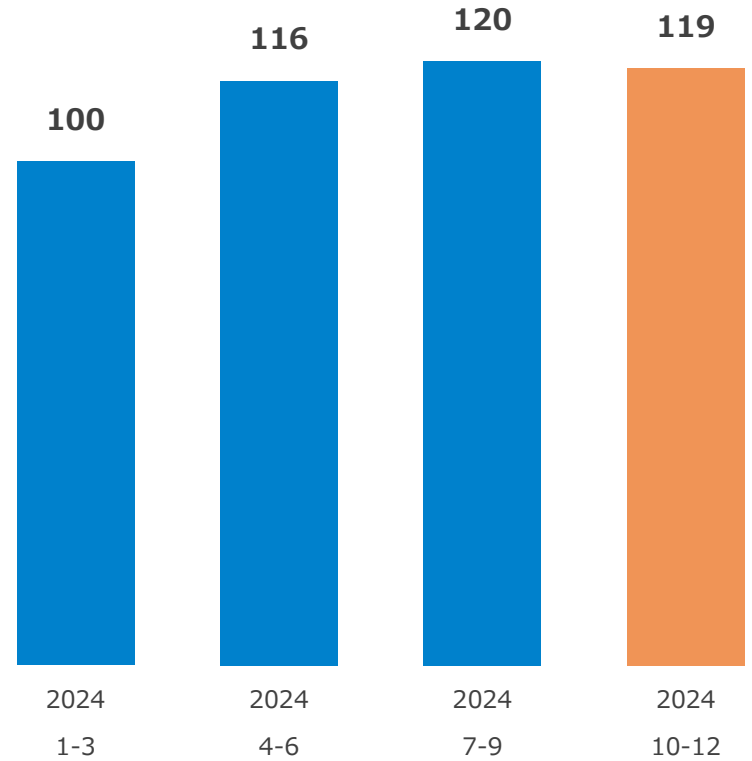
単体混載売上高推移

※2024年1-3月を100とする

輸出



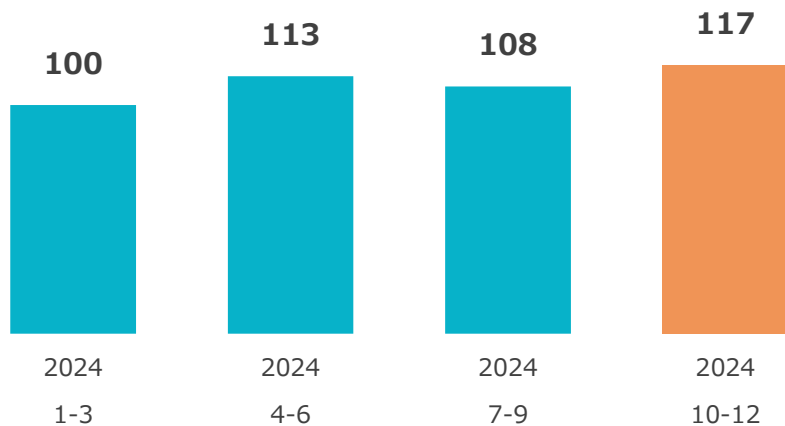
輸入



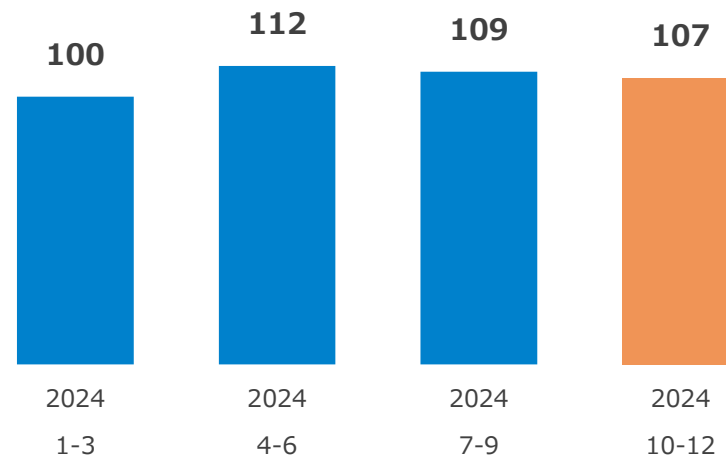
単体混載数量・単価推移

※2024年1-3月を100とする

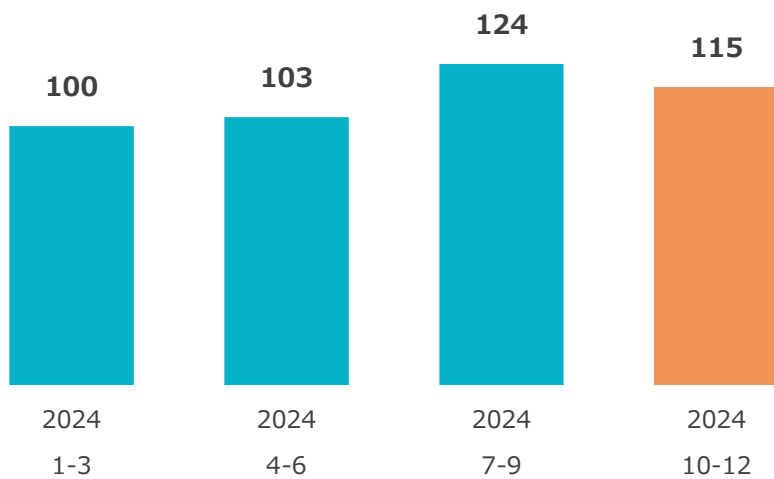
輸出混載数量



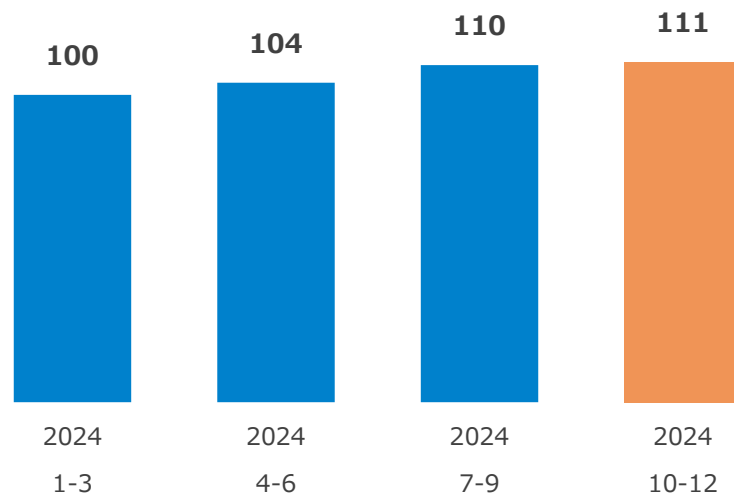
輸入混載数量



輸出混載売上単価



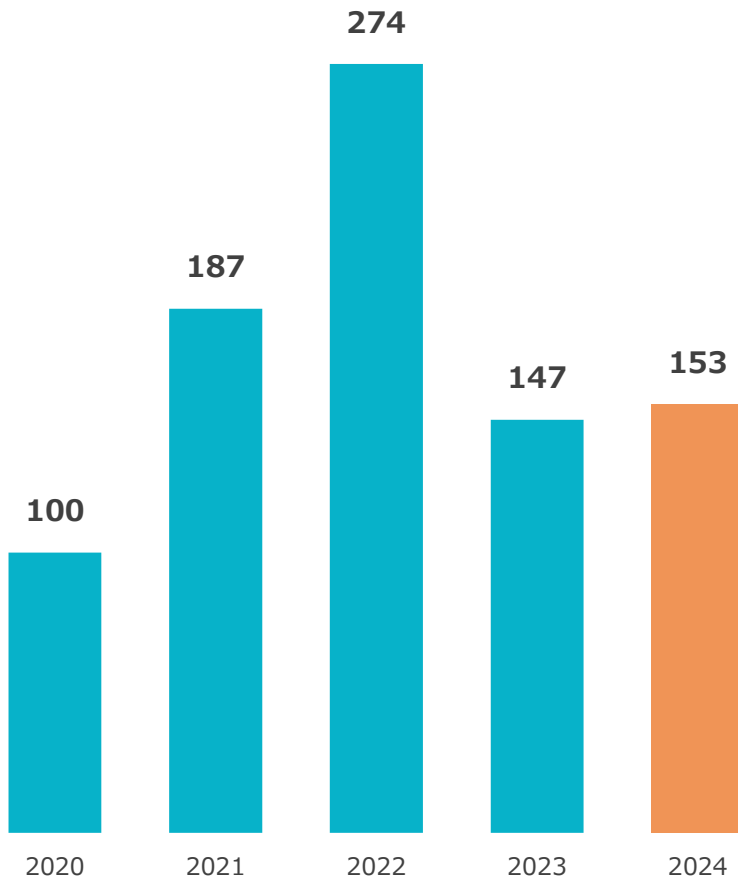
輸入混載売上単価



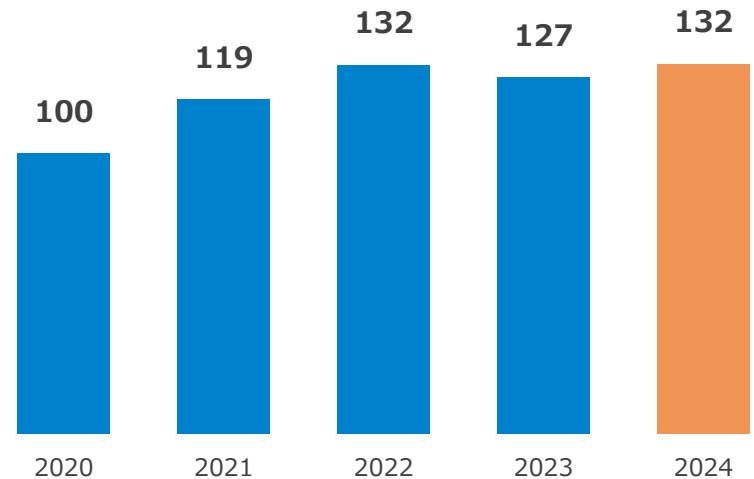
単体混載売上高推移

※2020年を100とする

輸出



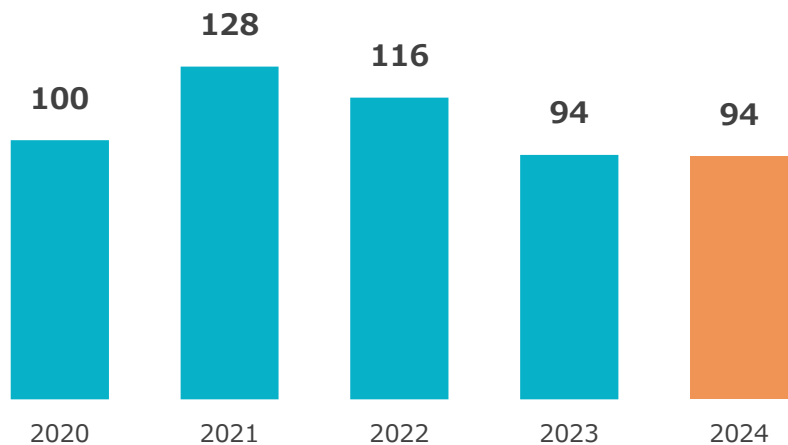
輸入



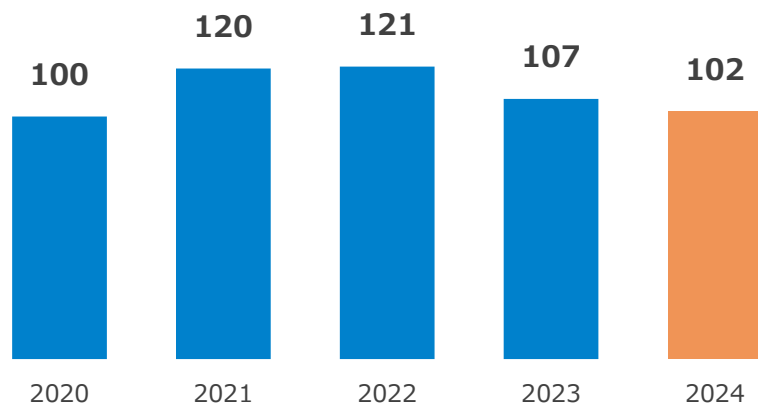
単体混載売上数量・単価推移

※2020年を100とする

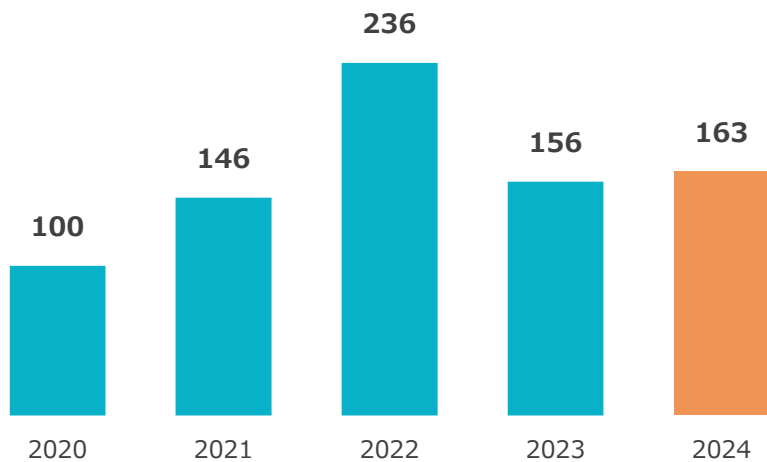
輸出混載数量



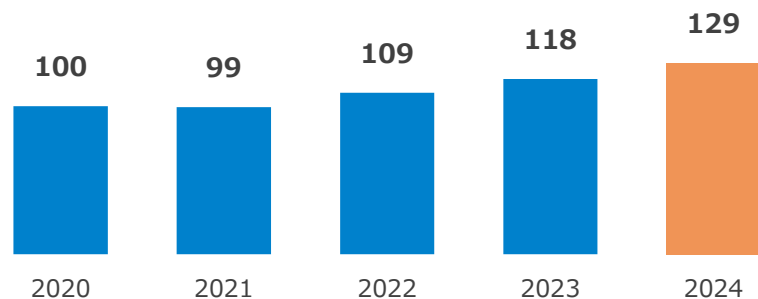
輸入混載数量



輸出混載売上単価



輸入混載売上単価



連結貸借対照表の概要(前期末比)

(百万円)

<主な変動要因>

流動資産

- ・現金及び預金 +1,861
- ・売掛金 +867

固定資産

- ・建物及び構築物 +268
- ・土地 +330

総資産額 27,396 (+4,033)

流動負債
3,100
(+958)

固定負債
1,066
(+227)

純資産
23,229
(+2,847)

流動資産
20,004
(+2,898)

固定資産
7,392
(+1,135)

自己資本比率 81.2% ※

<主な変動要因>

流動負債

- ・買掛金 +230
- ・未払法人税等 +396

固定負債

- ・リース債務 +144

純資産

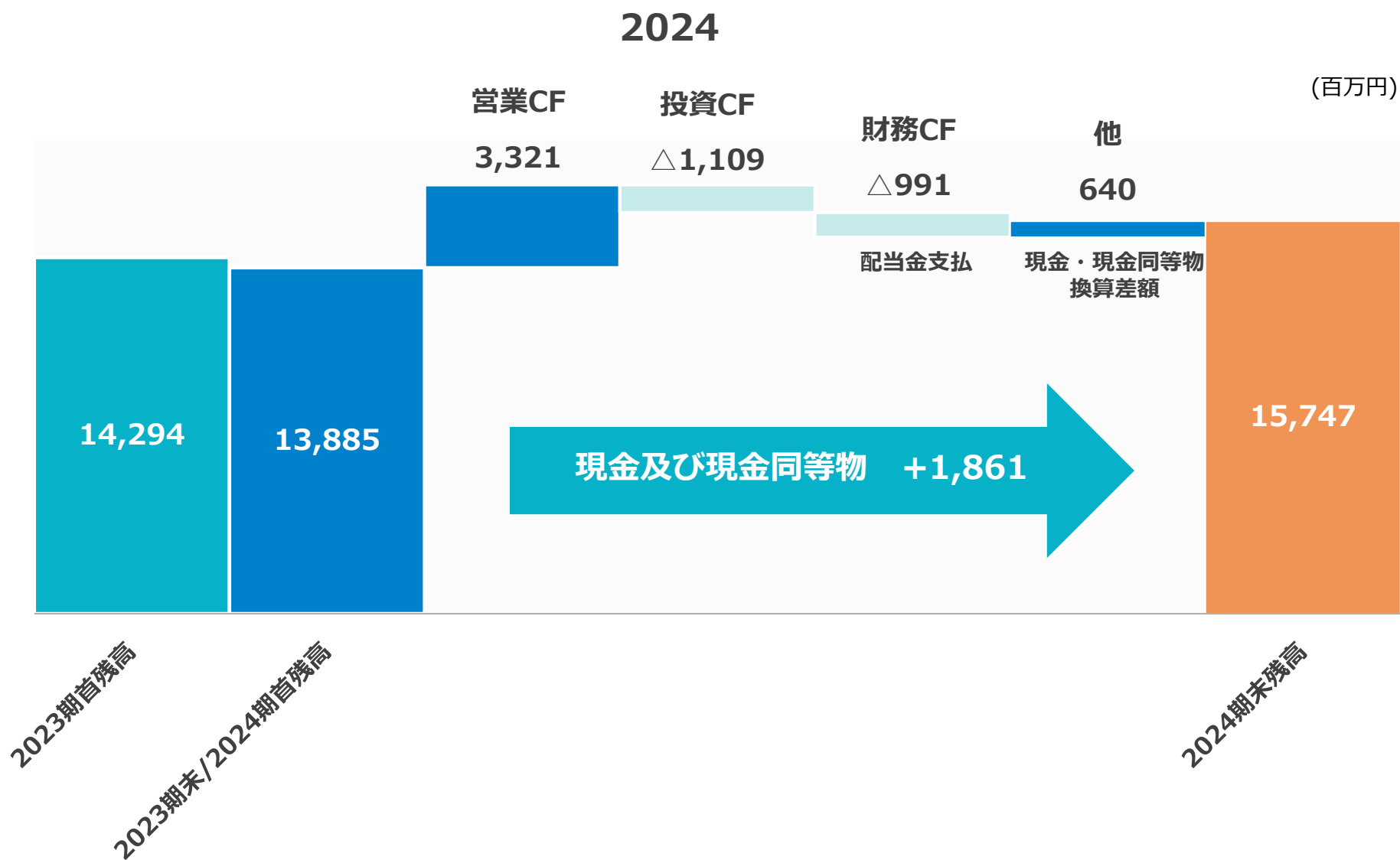
- ・利益剰余金 +2,319
- ・為替換算調整勘定 +417

() 内は前期末比増減

※自己資本 22,236

2024年12月末現在

連結キャッシュフロー計算書の概要



当社の投資の推移

単体の貸借対照表上の「投資その他資産」推移 ^{※3}



※1 NBL…内外釜山物流センター(韓国の連結子会社)

※2 2011年、2016年の「連結当期純利益－単体当期純利益」については、連結でのれん減損損失等を計上したことにより、「連結当期純利益<単体当期純利益」となったため、ゼロで表示

※3 グラフには単体の流動資産の「関係会社短期貸付金」を含む

※4 連結子会社から関係会社貸付金の返済があったため減少

中期経営計画と進捗状況

第5次中期経営計画（2023年～2027年） ※1

当社グループが目指すもの

国際物流における
最高のソリューション
プロバイダーでありたい!

基本方針

真の国際総合フレイト
フォワーダーを目指す

本業の混載で
国内シェアトップ
維持拡大

第2の本業として
フォワーディング
を徹底的に拡大

グループ
売上高
700億円
(2027年度)

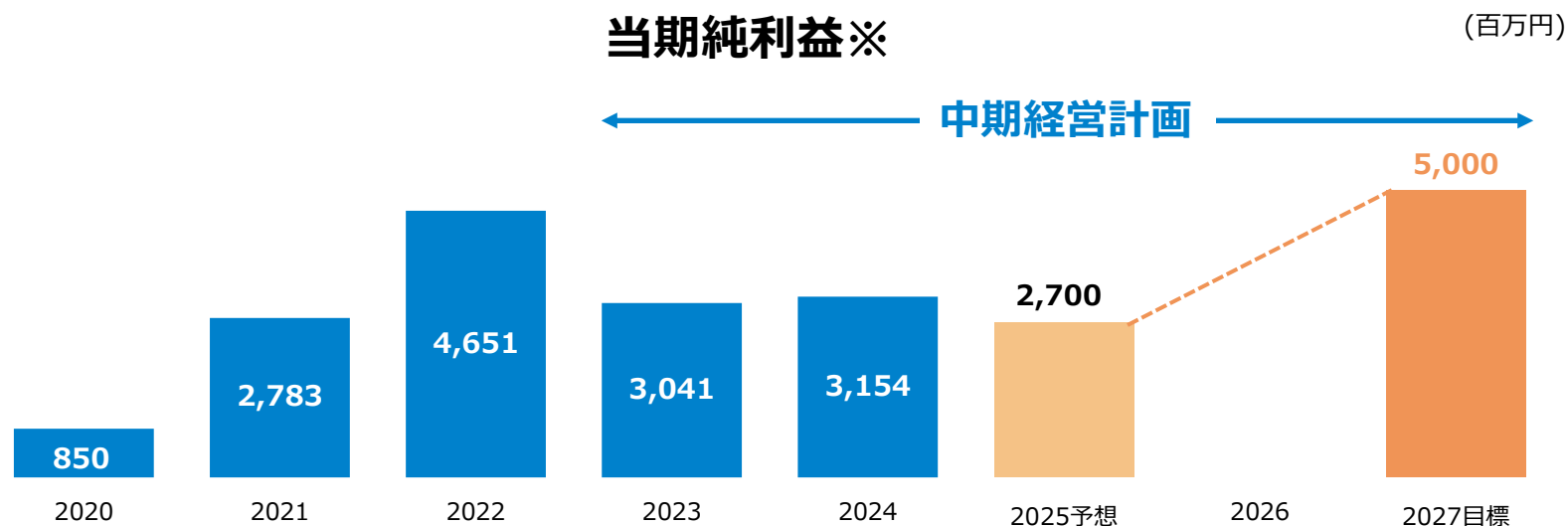
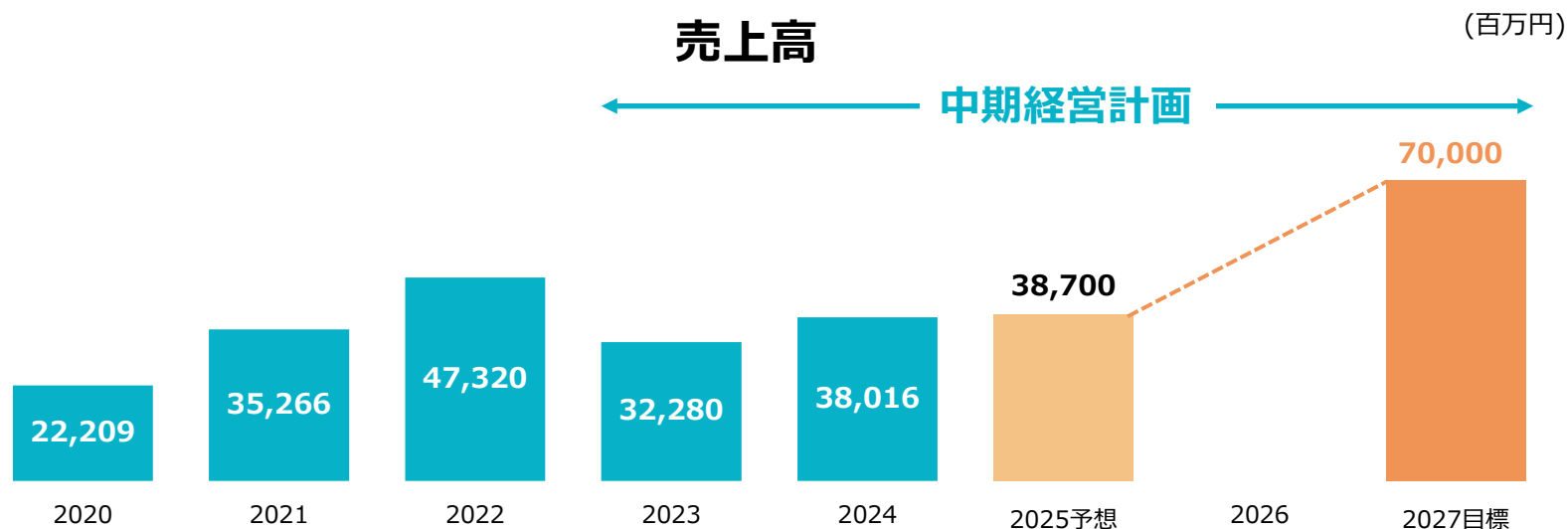
当期純利益※2
50億円
(2027年度)

※1 中長期的視点で経営する目的で5か年で設定

※2 親会社株主に帰属する当期純利益

[2023年2月10日公表資料]

中期経営計画 進捗状況



※ 親会社株主に帰属する当期純利益

中期経営計画 施策と進捗状況①

国内

混載事業

事業ノウハウやネットワークを活かし業界トップを堅持、
安定的収益確保を実現

→危険品内貨受けサービスの展開と危険品ダイレクト
混載の仕向地を拡充

→現場に精通した社員の育成のため、若手社員に対し、
港湾倉庫での研修を実施



フォワーディング事業

グループ間の最適な組織編成により売上と利益の増加を
目指す

→2023年の東京本社につづき、「大阪本社営業部」
を再編し、フォワーディング営業体制を強化

→フォワーディング経験豊富な人材を営業部に配置、
ワンストップサービス対応の実施

→顧客ニーズに合致したサービスを創り上げる
提案営業の推進



当社のフォワーディング事業による大型貨物輸送の様子

中期経営計画 施策と進捗状況②

海外

代理店

さらなる関係強化を図るとともに再編を視野に入れた効率的な運用を推進

→サービス拡充に伴い各代理店との関係強化を進める

新規拠点設立

今後成長が期待できるエリアでの現地法人や駐在員事務所の設立を検討

→フライングフィッシュ社によるベトナム現法の設立

既存拠点の業務拡大

現地スタッフによる地場企業向けの

輸出営業のインフラを構築、

日本以外への輸出獲得に精励

→韓国で倉庫を取得



中期経営計画 投資戦略と進捗状況

1 M&A 等

M&A、資本提携、業務提携により既存事業の規模拡大やシナジー効果を生み出す
→年間約100件の案件を検討するも、最大限のシナジー効果が期待できる案件がなく、
成約は無し

2 人材・教育

国内外ともに新規事業、営業スタッフ拡充等の人材投資や社員能力向上のための
教育研修投資を行う
→人事制度改革を実施し、考課制度と給与制度を導入
海外や倉庫研修によりグローバルな人材を育成

3 DX

営業支援、業務効率化、顧客サービス充実のため一層のDX推進を図る
→2024年4月に大阪本社に営業企画・DX推進部を設置し、RPAツール等のICTを
取入れ、定型業務自動化により業務効率化を推進

4 アセット 事業

海外を中心に倉庫等のアセットを取得、事業領域の拡大を図る
→ユーシーアイエアフレイトジャパン社が物流倉庫用地を取得
韓国で倉庫を建築

5 ESG・ SDGs

CGコードに則って対応し、環境分野については、温室効果ガスの排出量削減対策を講じる
→CDPの気候変動スコアリングの格付けを取得
サステナビリティ委員会を定期的に実施
サステナビリティホームページを開設

ベトナムにおける子会社設立

国内の連結子会社

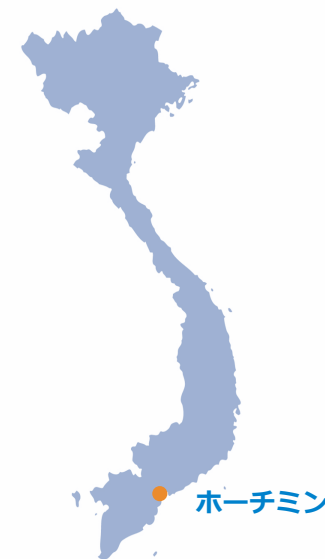
2024年
秋

フライングフィッシュ株式会社が ベトナム・ホーチミン市に子会社設立

- 商号：Flying Fish Vietnam Co.,Ltd.
- 所在地：ベトナム社会主義共和国ホーチミン市
- 資本金：8,000百万VND（約4,800万円）
- 会社設立年月：2024年10月
- 事業開始年月：2024年12月



ベトナム



新倉庫の建築

2024年

韓国の連結子会社 内外銀山ロジスティクス 釜山で倉庫完成

- 建築費用：19億ウォン
(約2億1,000万円)
- 倉庫面積：1,974㎡ (1階)



2024年

韓国の連結子会社 内外釜山物流センター 釜山で冷凍倉庫を建築開始

- 建築費用：95億ウォン
(約10億5,000万円)
- 倉庫面積：合計4,375㎡ (3階)



内外釜山物流センター 冷凍倉庫完成イメージ

新倉庫用地取得

国内の連結子会社

2024年
7月

株式会社ユーシーアイエアフレイトジャパンが 関西国際空港近辺に物流倉庫用地取得

- 用地取得費用：3億2,900万円
- 倉庫建設費用：4億円（予定）
- 用地面積：1,922m²
- 倉庫面積：合計1,170m²（2階）



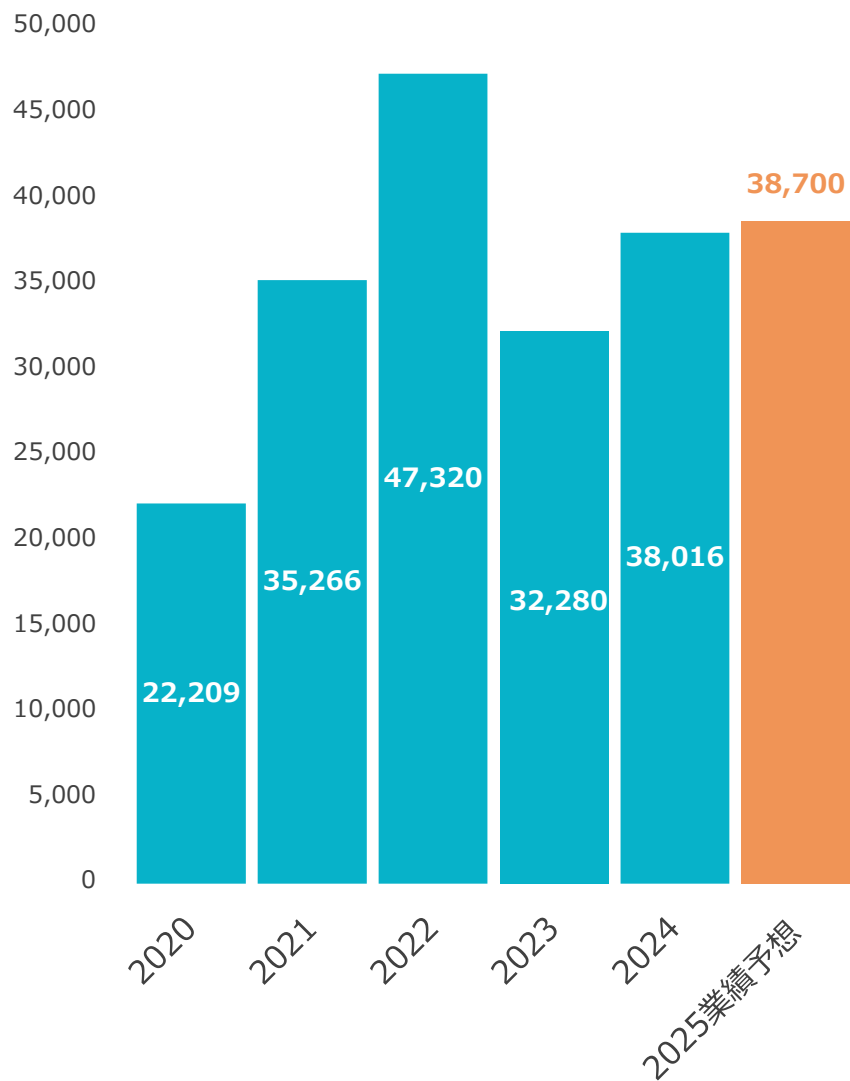
ユーシーアイエアフレイトジャパン 物流倉庫完成イメージ

今期業績予想

連結売上高・営業利益業績予想

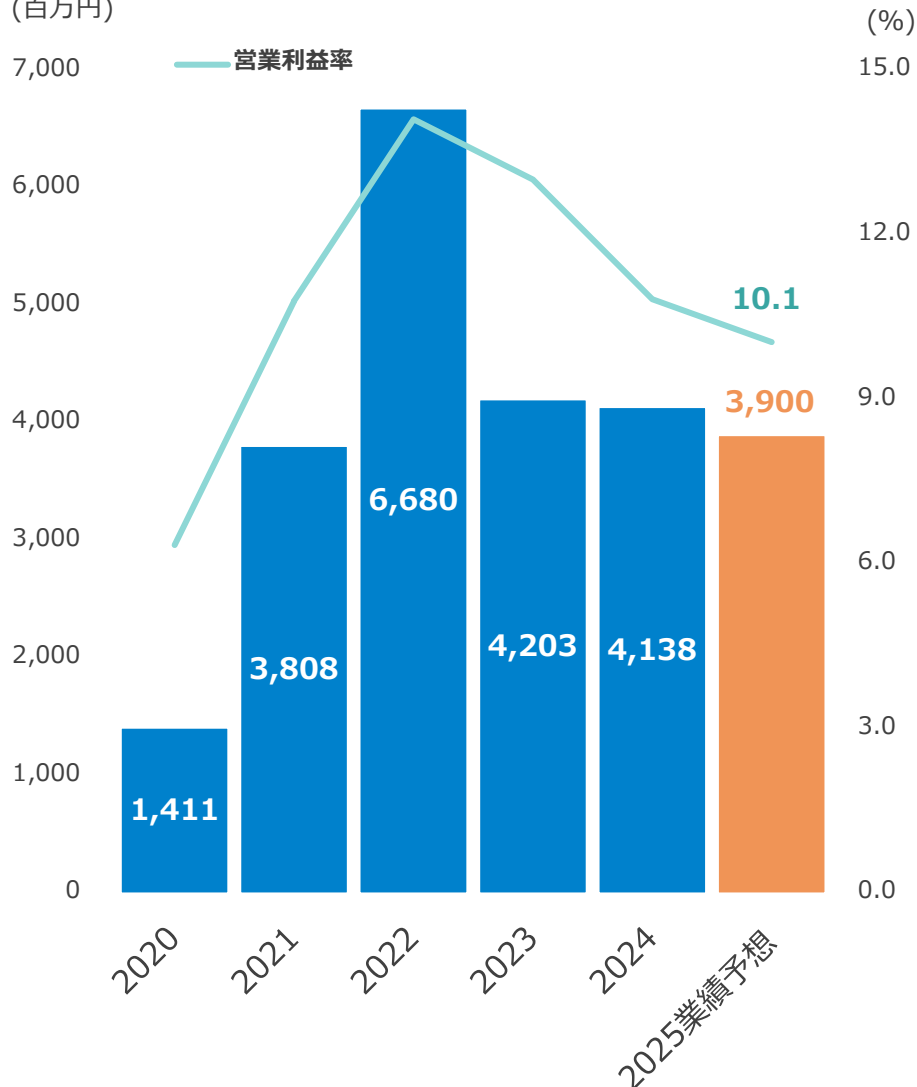
(百万円)

売上



営業利益

(百万円)



その他

- SDGsへの取組み
- 配当金の実績と予想
- 当社株価の推移

SDGsへの取り組み

当社は経営理念のもと SDGsと行動規範を関連付け グループ経営を推進

(経営理念・行動規範 2006年7月制定)

※内外トランスライングループは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています



■ 当社の行動規範(抜粋)とSDGs

私たちは高い倫理と協調の精神を持って行動します

- 女性活躍推進
- シニア雇用・障がい者雇用
- 育児・介護休業制度



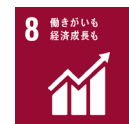
私たちは会社の仕事を通じて社会への貢献を果たします

- 地域社会の発展・活性化・次世代育成
- 環境負荷低減
- CO₂排出量の算出
- サステナビリティ委員会の設置
- CDP格付け取得



私たちはたゆまぬ努力により自己の成長を図り、社会を
発展させてゆきます

- 社会・経済の発展に貢献



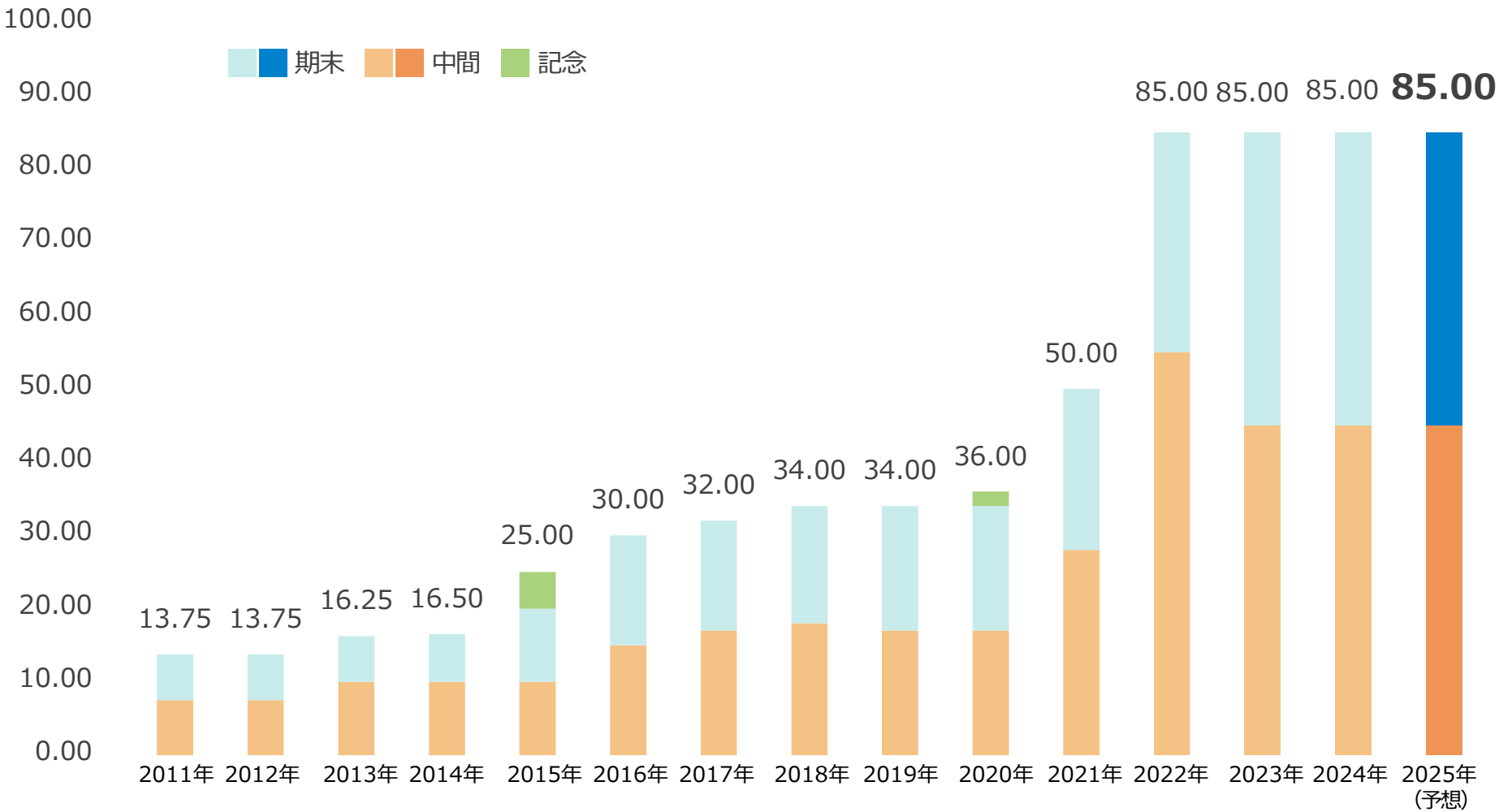
SDGsへの取組み

サステナビリティホームページ開設



配当金の実績と予想

(配当金/円)



※2012年と2015年6月末日を基準日としてそれぞれ1：2の株式分割を実施、上記金額は分割後配当額にて表示

当社株価の推移



※2012年と2015年6月を基準日としてそれぞれ1：2の株式分割を実施、分割後の株価を基に算出
出典：Yahoo! JAPANファイナンスを基に当社作成（株価は月末終値）

ご清聴ありがとうございました



お問合せ先：取締役 IR担当 人見 茂樹

大阪本社 大阪市中央区備後町2丁目6番8号 サンライズビル5階

TEL 06-6260-4800 **URL** <https://www.ntl-naigai.co.jp>

本資料に記載されている計画や見通し、戦略などは既に具体化している事実を除き、本資料の作成時点で取得可能な情報に基づくものであり、これらにはリスクや不確実性が内在しております。そのため、実際の業績などは本資料に記載の見通しや予想とは異なる結果となる可能性があり、その内容を保証するものではありません。